

豊島区都市計画マスタープラン改定 区民ワークショップ成果発表会

区民ワークショップとりまとめ 資料集

1	駒込地区	2
2	巣鴨・西巣鴨地区.....	3
3	大塚地区	4
4	池袋北地区	5
5	池袋東地区	6
6	池袋西地区	7
7	雑司が谷地区	8
8	高田地区	9
9	目白地区	10
10	高松・要町・千川地区.....	11
11	長崎・千早地区.....	12
12	南長崎地区	13

平成25年12月21日

■地区の魅力や資源などの主な意見

<まちづくりの課題について>

- ・「形成」ばかりでなく、歴史文化や伝統を保全するという視点も重要
- <「駒込地区」のシンボルである「桜」をテーマとするまちづくりについて>
- ・桜と共生共存する生活文化を根付かせたまちづくりを行うことで、世界への発信力が生まれる
- ・世代間交流や子供の教育、新旧の住民によるコミュニティづくりのきっかけなど、様々な場面で桜文化を活用することが重要

<地域の活性化拠点について>

- ・中央卸売市場の花、野菜、果物等の即売会のような施設を地区の拠点として整備することで、「年間を通したにぎわい」を創出することができる

<駒込駅について>

- ・駒込駅に商業機能があってもよいが、ショッピングモールを目指すわけではないと思う
- ・商店街（駒込銀座通り）との連携を考えると、東側の交通結節機能が弱い
- ・単なる交通広場を整備するのではなく、駅前にはベンチなどを設置し、ゆったりとくつろげる交流スペースを整備すべき

<補助 81 号線について>

- ・補助 81 号線の建設に反対する住民は多く、反対運動もおこっている
- ・道路建設により、交通量が急増し、環境悪化が予想されるほか、多くの居住者が転出を余儀なくされるためコミュニティの存続を危ぶむ声もある
- ・補助 81 号線は、都市計画決定から 70 年たっており、見直しをしてもらいたい
- ・消火栓を地域内に密度高く配置し、それらを使った地域の防災訓練を充実することで、コミュニティの防災力が高まる
- ・北区側の「西ヶ原みんなの公園（防災公園）」とその周辺に道路が整備されているほか、染井霊園をはじめ数々の校庭・敷地等が不燃空間として存在
- ・白山通りから本妙寺方向に向かう道路と、「西ヶ原みんなの公園」の南側を走る道路（東西方向に走る道路）が繋がっていないので、この部分は繋がった方がよい

<歩行者の安全・安心について>

- ・駒込地区は坂が多く、自転車が猛スピードで走っていることから、自転車マナーの徹底を地区として取り組んでいくことが重要
- ・歩道が狭いため、車椅子の利用者に不便

<コミュニティを育む都市空間について>

- ・住んでいる人が安全・安心を感じることができるまちづくりが重要
- ・ハードとソフトが融和していることが、人と人との結びつきを高める
- ・染井よしの桜の里公園、駒込小学校と西福寺の間の桜並木、門と蔵のある広場の一角は、シンボリックかつコミュニティを育む空間
- ・染井霊園～染井よしの桜の里公園周辺～駒込駅南の駒込東公園を結ぶ道路は、コミュニティの軸となる道路
- ・駒込東公園は、自然の地形（土地の高低差）を残した、趣のある公園
- ・駒込 7 丁目などの低地部は、広々とした公園・広場が少ない
- ・駒込 7 丁目付近に「さくら」をテーマとした常設の拠点（例えば、さくら文化資料館）を設置することで地区に回遊性が生まれる

<公共施設等の土地利用転換後の跡地利用について>

- ・公共施設等の跡地利用は、周辺を含めたまちづくりとして考えることが必要

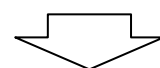
<都市マスの表現方法について>

- ・概念が明確にイメージできる言葉を使ってほしい
- ・アメニティ（総合的な快適性）の快適性とは、人によってイメージが異なる

■ワークショップでのまちづくりの目標案

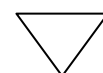
<現在の都市計画マスタープラン>

四季の花咲く文教のまち



<ワークショップでのまちづくりの目標案>

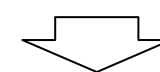
ソメイヨシノを中心とした花とみどりがつなく、
人と人の絆のあるまち



■ワークショップでのまちづくりの主な課題案

<現在の都市計画マスタープラン>

- 花とみどりと文教のまちの形成（アメニティの向上）
- にぎやかな暮らしよいまちの形成（商業業務と生活の拠点整備）
- 安全・安心で快適なまちの形成（防災性の向上）



<ワークショップでのまちづくりの主な課題案>

- 花とみどりに調和した生活空間・文化の保全・継承
（歴史文化環境の保全・継承、良好な住環境の形成）
- 人と人とのつながりを育むまちの形成（地域交流拠点の充実）
- 日常生活を支える商業・サービスが充実したまちの形成
（身近な商店街と駅周辺での生活の拠点整備）
- 安全・安心で快適なまちの形成
（ハード・ソフト両面からの取り組み）

（赤字は現在の都市計画マスタープランからの変更点）

■地区特性を生かしたまちづくりの主な視点

①みどりと歴史文化資源のネットワーク化

- ・ソメイヨシノに由来する桜文化を発信する機能の導入
- ・地区内の個性あるみどりと歴史文化資源を結びことにより回遊性を創出
- 染井霊園
- 染井よしの桜の里公園、駒込小学校と西福寺の間の桜並木、門と蔵のある広場の一角
- 染井吉野桜記念公園（駅前）
- 駒込東公園

②地域交流の拠点としての公園・広場の活用

- ・ソメイヨシノを媒体とした世代間交流の場としての活用
- ・地域イベントの場としての活用

③ゆとりや潤いを感じられる駅前空間の形成

- ・駅周辺でのオープンスペース、憩いの空間整備
- ・交通結節機能と合わせた広場空間の創出
- ・地区の魅力の情報発信機能の充実

④歩行者中心の交通環境の形成

- ・歩行者と自転車が共存した道づくり
- ・自転車のマナーの向上
- ・誰もが安心して歩くことができる歩行者空間の形成

⑤安全・安心のまちづくり

- ・住民主体の防災まちづくり

⑥区民主体のまちづくりを支援する仕組みの検討

- ・公共施設等において区民等による収益活動を通じた地域の活性化を図るとともに、収益の一部を区民主体のまちづくり活動に還元するなど

⑦わかりやすい都市計画マスタープランの作成

- ・わかりやすくイメージしやすい表現で都市計画マスタープランを作成

■地区の魅力や資源などの主な意見

<防災について>

- ・安全に避難できる道路の整備
- ・避難計画と整合した公園整備計画の検討
- ・帰宅困難者と地域住民の避難の双方に対応できる対策が必要
- ・地蔵通りなどの観光客に対する避難対策

<住環境について>

- ・狭い道路は防災面で問題あるが、車が少ないので子どもの遊び場にもなっている。このような側面も重要
- ・四季を感じられる緑を増やす（巣鴨駅周辺、地蔵通り、白山通り）、
- ・寺社等の緑の保全
- ・多世代が交流できる場の創造
- ・巣鴨3丁目周辺は子どもが集まる施設が多いため、交通安全面に配慮すべき。

<道路環境について>

- ・巣鴨地区における広くて安全な避難道路と観光道路の共用

<補助81号線周辺まちづくり>

- ・沿道における具体的なまちづくりの姿が見えない
- ・道路整備により既存コミュニティが分断される ・ 障害者への配慮

<公園について>

- ・多様な公園の整備（みんなが使える、子どもたちが遊べる、喫茶スペースがある、運動できる）

<観光について>

- ・観光資源としての活用（大正大学の「さざえ堂」、地蔵通り商店街のシャッターの東海道五十三次の絵）
- ・施設の充実・整備（観光ルートの案内板の設置、観光バスの駐車スペース（都バス車庫の活用）、トイレ）
- ・地蔵通りの街灯LED化、電線地中化などの環境面の取り組みと「おもてなし」の組み合わせ
- ・地区の商店街や民間企業と連携した観光まちづくりの推進
- ・地域の誇りとなり、地域と調和する観光地であることが必要である（地蔵通り）
- ・染井霊園を重要な観光資源として、位置づけていく必要がある
- ・東京オリンピックの開催を視野に入れた検討

<地域資源について>

- ・千川上水の復活と旧中山道により古い文化を継承する回廊として活用
- ・安全性に配慮した路地空間の保全
- ・都電荒川線の活性化による観光やまちづくりへの活用

<商店街について>

- ・商店がなくなり、名前だけの商店街がある
- ・観光客に対しての商店街と地域にとっての商店街とのバランスが必要（地蔵通り商店街）

<巣鴨駅周辺地区について>

- ・JRと三田線の利用者動線を区分する工夫が必要
- ・駅に近接した便利な駐輪場が少ない。アトレには駐輪場がない。
- ・若い人にとって魅力のある機能が欲しい。 ・バスと鉄道との接続性が悪い
- ・ゆっくりと時間を過ごせる雰囲気の良いお店が欲しい
- ・地域住民が集える場があると良い（空き店舗の活用等）
- ・都営バス跡地や他の大規模敷地の土地利用転換を活用した巣鴨地区の活性化

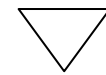
<西巣鴨駅周辺地区について>

- ・駅のバリアフリー化 ・朝日中学校跡地を活用した魅力の創造
- ・生活拠点としての魅力が少ない。少し遠くても巣鴨駅を利用する機会が多い。
- ・保育所等の誘致による付加価値の創造 ・公衆トイレの整備

■ワークショップでのまちづくりの目標案

（変更なし）

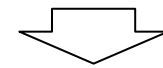
にぎわいと落ち着いた暮らしがふれあうまち



■ワークショップでのまちづくりの主な課題案

<現在の都市計画マスタープラン>

- 活気あふれる商業のまちの形成（商業業務拠点と商店街の整備）
- 生活しやすいまちの形成（良好な住環境の形成）
- 歴史を育むまちの形成（アメニティの形成）
- 安全・安心で快適なまちの形成（防災性の向上）



<ワークショップでのまちづくりの主な課題案>

- 安全・安心で生活しやすいまちの形成（**防災性の向上**と良好な住環境の形成）
- 地域型観光を活用した**商業のまちの形成（**観光と地域が調和する**商業業務拠点と商店街の整備）
- 過去と現在が出会い、未来につなぐ魅力あるまちの形成**（子どもたちに引き継ぐまちづくり）

（赤字は現在の都市計画マスタープランからの変更点）

■地区特性を生かしたまちづくりの主な視点

- ①防災まちづくりの一層の推進
 - ・生活道路網の整備、不燃化の推進
 - ・地区の生活環境と調和した延焼遮断帯（補助81号線）整備の推進と沿道まちづくりの具体的な検討
 - ・地蔵通り商店街等に訪れる高齢者などの帰宅困難者対策
- ②不足している公園、オープンスペースの整備推進と緑の保全・創造
 - ・多様な公園の整備（子どもが遊べる、運動が出来る等）
 - ・神社やお寺などのみどりの保全
 - ・四季を感じられる街路樹等の植栽の推進
- ③多彩な地域資源を活用した地区の魅力づくり
 - ・地蔵通り、中山道、千川上水、都電、染井霊園、路地空間などのまちの資源を生かした地区の魅力づくりと観光への活用
 - ・資源の情報化（案内板の設置等）による回遊性の創造
- ④特色ある観光地（地蔵通り）における観光機能強化と地域との調和
 - ・観光客対応機能の充実（トイレ等の観光客対応機能の整備、電柱の地中化等による景観向上等）
 - ・地元商店街、民間企業と連携した観光まちづくりの推進
 - ・地域の人々の生活利便性の向上に資する商店街としての役割の充実
 - ・東京オリンピックの開催を意識した観光の振興（他の観光資源との連携も含めて）
- ⑤交流拠点としての巣鴨駅周辺地区の機能強化
 - ・鉄道事業者間の連携による円滑な歩行動線の創出
 - ・魅力ある都市機能の誘導（若者対応、雰囲気の良い店等）
 - ・交通結節機能のより一層の強化（バス網、駐輪場等）
 - ・大規模な土地利用転換を地区の活性化に結びつける工夫
- ⑥生活拠点としての西巣鴨駅周辺地区の機能強化
 - ・魅力の創造（保育所の誘致等による付加価値の創造、朝日中学校跡地の活用など）
 - ・駅のバリアフリー化

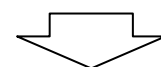
■地区の魅力や資源などの主な意見

- ＜まち全体のイメージについて＞
 - ・静かで交通の便がよく家賃も安く暮らしやすいまち
 - ・住むなら池袋より大塚
 - ・大塚の資源を生かした回遊性のあるまちづくり
 - ・子育てしやすい、日常生活の利便性が高いまちづくり
 - ・地元の人（居住者、通勤・通学者）が愛着を持てるまちづくり
- ＜都電を生かしたまちづくりについて＞
 - ・特徴である都電を生かしたまちづくりが重要
 - ・都電沿いの緑化活動を大塚地区全体へ拡大
- ＜商店街への誘客について＞
 - ・駅ビルへの来客者及び就業者を商店街へ呼び込む取組みが重要
 - ・大塚駅での乗降客を商店街へ誘客し、まちのにぎわいにつなげることが重要
- ＜交通利便性の向上について＞
 - ・自転車対策として、自転車専用レーンの設置
 - ・コミュニティバスの検討
 - ・超小型モビリティをシェアサイクルのように貸出し、回遊路等を組み合わせて、大塚駅周辺を地域交通ネットワークのモデル地区にできないか
 - ・都電は豊島区新庁舎へアクセスする際、便利である
- ＜防災・防犯について＞
 - ・住民の連携、ネットワークによる減災対策が必要
 - ・空き地が少ない、道路が狭い、危険な箇所があるなど防災面で不安
 - ・防災公園の整備が必要
 - ・他区に比べ街灯が少なく防犯面で不安
 - ・地域コミュニティによって見られている意識を作ることによって犯罪防止の効果があるのではないか
 - ・外国人が増加していることを考えると、防犯カメラを設置していることを複数言語で記載する方がより効果的ではないだろうか
 - ・大塚三業通り周辺での都市型水害に対応した対策が必要
- ＜みどりについて＞
 - ・安心して憩える公園の整備や桜並木の保全が必要
- ＜地域コミュニティ活動について＞
 - ・町会の活動に参画する若者が少なく、町会活動が停滞している
 - ・都電沿線でのバラの管理のボランティアなど区民がまちに出てくる仕掛けを作り、それを回す組織、仕組みがコミュニティ形成の促進につながると良い
 - ・コミュニティの形成を考えたまちづくりが必要（災害時などを見越して、顔を知っているくらいのレベルは必要）
 - ・住民が自発的に進めるまちづくりには限界があるため、行政と町会を結ぶことができるキーマンを見つけることが必要
 - ・コミュニティ形成を考えるにあたって、大塚に多く住んでいる外国人との連携したイベントなどの活動も必要
- ＜大塚三業通りの観光活用について＞
 - ・かつての面影を掘り起こし、観光等に活用
- ＜宮仲公園通りについて＞
 - ・大規模マンション開発によるまちの様子の変化（夜遅くまで人が歩くようになった）
- ＜道路整備について＞
 - ・補助 79 号線（氷川下通りの北伸路線）の整備の見通しが中々立たないので、整備されるまでの間、空間として空いているスペースを有効活用できないか
- ＜大塚駅、新大塚駅周辺について＞
 - ・大塚駅における空蝉橋側への改札設置によるまちの新たな活性化
 - ・大塚駅の改修工事によって南北をつなげるコンコースができ地域分断が緩和された
 - ・駅の改修工事、区役所の移転によって3つの回遊ルート「大塚駅、新大塚駅、都電沿いで構成された南側回遊ルート」「大塚駅北側の回遊ルート」「大塚駅、新庁舎、サンシャインで構成された西側回遊ルート」が考えられ、これらの回遊ルートで大塚への来街者が増えないか
 - ・大塚駅周辺の地域資産・資源、イベントなどを活用したまちの活性化
 - ・大塚駅へ自動車を入れ込まないまちづくりが進んでいるので、補助 81 号線（空蝉橋通り）の交通量が減る分、自転車レーンの設置や植樹をしてみどり豊かにしてはどうか
 - ・文京区と連携した新大塚駅周辺の活性化
 - ・大塚駅と新大塚駅間の往来が不便

■ワークショップでのまちづくりの目標案

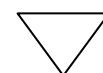
＜現在の都市計画マスタープラン＞

魅力あふれる拠点に人びとが集うまち



＜ワークショップでのまちづくりの目標案＞

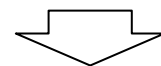
魅力あふれる拠点に人びとが集う暮らしやすいまち



■ワークショップでのまちづくりの主な課題案

＜現在の都市計画マスタープラン＞

- 駅を中心に人が集うまち（拠点となる駅周辺の再整備）
- 安全・安心で快適なまち（防災性の向上）
- 魅力ある顔を持つまち（アメニティの向上）



＜ワークショップでのまちづくりの主な課題案＞

- 駅を中心に人が集うまちの形成（拠点となる駅周辺の再整備、回遊性の向上）
- 安全・安心で快適なまちの形成（防災性、防犯性の向上）
- 充実したコミュニティと交流があり、魅力ある顔を持つまちの形成（都電を生かしたまちなみ形成、質の高い公園の整備、コミュニティの形成）

（赤字は現在の都市計画マスタープランからの変更点）

■地区特性を生かしたまちづくりの主な視点

①防災・防犯まちづくりの推進

- ・狭あい道路の改善、オープンスペースの確保などによる防災性の向上
- ・防災機能を備えた公園の整備（平常時は安心して憩える公園として整備）
- ・大塚三業通り周辺の都市型水害対策の推進
- ・街灯の設置などをはじめとした防犯対策の推進による安心して暮らすことのできるまちづくり

②交流拠点としての大塚駅周辺地区の機能強化

- ・交通結節機能のより一層の強化（地域交通ネットワークのモデル形成、バリアフリー、都電との乗換え、自転車専用レーンの設置、西口改札設置の検討など）
- ・駅利用者、駅ビル利用者をまち中へ誘客できる仕組みづくり
- ・コミュニティバスの検討
- ・補助 81 号線（空蝉橋通り）での植樹によるみどり豊かな道路空間の整備

③多彩な地域資源を活用した地区の魅力づくり

- ・大塚地区の地域資源、イベントを生かしたまちづくり
- ・かつての大塚三業通りの面影を掘り起こし、観光への活用

④都電を生かしたまちづくり

- ・都電沿線の緑化を生かした景観による魅力づくり
- ・都電沿線のバラ、桜並木を生かした回遊性の向上
- ・地域の足となる公共交通としての活用

⑤地域コミュニティの形成・活用

- ・住民の連携、ネットワークによる減災対策や災害時を見越したコミュニティの形成
- ・都電沿線の緑化活動をきっかけとしたコミュニティ形成
- ・地域の交流を育み見守り合うコミュニティ形成

■地区の魅力や資源などの主な意見

<まち全体のイメージ>

- ・ハードとソフトの両面からの防災まちづくり
- ・駅の拠点性と利便性を生かしたまちづくり
- ・下町的な風土を活かした住民同士のコミュニケーションのあるまち
- ・自転車、たばこ、ペット、ゴミ出しなどのルールを守り、まち全体としてマナーのあるまち

<防災について>

- ・木造住宅の密集地域の防災性の向上
- ・安全な避難と消防活動が可能な生活道路の整備
- ・JR 埼京線沿いは、行き止まり道路を解消して避難路とするため、歩行者動線を確保、また自転車も通行できれば池袋方面への利用がしやすい

<商店街について>

- ・身近な買い物の場と地域の交流の場の役割を担う商店街の充実
- ・商店街における宅配サービスと合わせた高齢者への見守りの検討
- ・貸し渋りをせずに、若い経営者に空き店舗を貸し出してほしい

<駅周辺のまちづくりについて>

- ・都市計画道路の整備に合わせた、北池袋駅及び下板橋駅のアクセス道路や広場の整備
- ・北池袋駅の駅前広場や駐輪場の整備、小中連携校の最寄り駅としての機能強化や安全性の確保
- ・下板橋駅の駅前広場や駐輪場の整備、谷端川北緑道と連携した水やみどりが豊かな駅前空間の形成
- ・各駅の駅施設の徹底したバリアフリー化、各駅周辺の地域密着型の商店街の活性化や商業集積の促進などにより、駅の拠点性や利便性を向上
- ・自転車の路上駐輪の防止

<コミュニティについて>

- ・地域の東西が連携したコミュニティの形成
- ・都市計画道路により分断されるコミュニティへの対策が必要
- ・マンション等の新住民と既存住民の交流促進、自治会や民生委員が連携した地域交流の強化
- ・若者や外国人がまちづくりに参加できる仕組みづくり
- ・住民同士の交流や色々な人が気持ちよく住めるようなコミュニティづくり
- ・氷川神社の祭礼や遊佐の市など、地域の活動や交流を大切にしたい

<幹線道路について>

- ・補助 73 号線及び 82 号線は、既存道路との適正な接続、鉄道との立体交差化、住宅地との調和を図る沿道及び周辺のまちづくりが必要
- ・幹線道路沿道は、適正な土地利用の誘導と延焼を遮断する機能の確保とともに、後背地の住宅地への配慮が必要

<住宅地について>

- ・建替えの際の敷地の細分化の抑制、共同化や不燃化の促進
- ・建替えに合わせた安全な生活道路の整備のためのセットバックの誘導
- ・まちづくりのルールを定める地区計画の指定
- ・生活道路における車の速度の抑制

<みどりについて>

- ・谷端川の氾濫防止と水のうるおいの活用
- ・大規模な開発における公園・緑地や地域活動の拠点等の設置の誘導

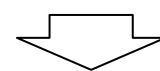
<その他>

- ・まちづくり課題に対して、早期に対応すべき取り組みも必要

■ワークショップでのまちづくりの目標案

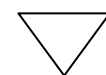
<現在の都市計画マスタープラン>

多世代で安全・安心して暮らせるまち



<ワークショップでのまちづくりの目標案>

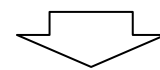
多世代が安全・安心に笑顔で暮らしつづけられる
まち



■ワークショップでのまちづくりの主な課題案

<現在の都市計画マスタープラン>

- 安全・安心で快適なまちの形成（防災性の向上）
- 便利で活気あるまちの形成（生活や商業業務等の拠点の整備）
- 魅力ある都市住宅のまちの形成（総合的な住環境の改善）



<ワークショップでのまちづくりの主な課題案>

- 安全・安心で美しく快適なまちの形成
（防災性の向上、うるおいの向上）
- 便利で活気あるまちの形成
（駅利便性の向上、生活や商業業務等の拠点の整備）
- 魅力ある都市住宅および充実したコミュニティとマナー
のあるまちの形成
（総合的な住環境の改善・向上）

（赤字は現在の都市計画マスタープランからの変更点）

■地区特性を生かしたまちづくりの主な視点

①防災まちづくりの推進

- ・補助 73 号線と補助 82 号線の整備にあわせた、周辺環境と調和した沿道のまちづくり（沿道の適正な土地利用の誘導、延焼を遮断する機能の強化、後背地の住環境への配慮等）
- ・周辺住宅地における防災性の向上（建替えに合わせた狭あい道路の拡幅やすみ切りの整備、消防活動が可能な幅員を有する住宅地内の主要な道路の整備、建物の不燃化の促進等）
- ・JR 埼京線沿いは、南北の歩行者動線及び行き止まり道路を解消する避難路の確保を誘導

②北池袋駅・下板橋駅周辺の拠点の強化

- ・駅利便性の向上（駅前広場や駐輪場等の整備、駅関連施設のバリアフリー化、駅周辺商業の活性化等）
- ・都市計画道路の整備にあわせた、駅へのアクセス性や利便性の強化

③うるおいの資源の活用・創出

- ・谷端川北緑道および沿道は、谷端川の氾濫防止と水のうるおいの活用を図り、憩いの空間や街並みを形成
- ・大規模な開発等は公園や緑地の設置を誘導

④良好な住環境とコミュニティの充実・向上

- ・敷地の細分化の防止、接道部の緑化の促進、建物の色彩の調和等のルールづくり（地区計画の検討・指定等）
- ・住宅地内の生活道路における車の速度の抑制
- ・地域の東西や新・旧住民が連携し、また都市計画道路による分断を解消するコミュニティの充実・向上
- ・地区に住む学生など、若い世代の区民ひろばなどの地域活動への参加を促進
- ・生活マナーの徹底（自転車、たばこ、ペット、ゴミ出しなど）

⑤地域商業の活性化

- ・周辺住宅地の生活や交流を支える商店街の活性化（宅配サービスによる高齢者の見守りにも寄与等）
- ・身近な買い物の場としての商業施設の立地誘導
- ・若い店舗経営者への空き店舗の積極的な貸し出し

■地区の魅力や資源などの主な意見

<回遊性の創出について>

- ・東西の回遊性を高めるには、東西デッキの整備が重要
- ・グリーン大通りは、オープンカフェなどが楽しめる通りとして活用
- ・池袋駅周辺は歩行空間を広げていくことも検討
- ・にぎわいの連続性がないと人は回遊しない
- ・標識やサインが少なく、通りの名前がわかりにくい
- ・サブカルチャーでアピールすることも可能
- ・多彩な魅力があることが、池袋らしさであると思う

<新庁舎の建設と跡地の利用について>

- ・新庁舎は池袋駅から遠いため、公共交通機関が必要
- ・新庁舎の周辺は、にぎわいの拠点として整備すべき
- ・新庁舎に隣接する街区でも再開発を期待
- ・現庁舎跡地は、来街者が楽しめる場所にすべき

<池袋駅及び駅前のスペースについて>

- ・人間中心の空間としていくことが必要
- ・駅前こそ緑豊かな空間とすべき
- ・池袋駅は圧迫感があり余裕がない
- ・南口の補助 172 号線の階段のある通路はエレベータを設置すべき

<交通について>

- ・駐車場、駐輪場の絶対量が不足
- ・駐車場の出入り口が賑わいを分断
- ・池袋駅周辺のバスの発着場はバラバラになって利用しにくい

<みどりについて>

- ・造幣局移転後の公園は、実のなる木や健康遊具の設置など工夫が必要
- ・造幣局移転後の公園整備とあわせたランニングコースの設置
- ・造幣局移転後の公園は、イベントなどで活性化につなげるべき
- ・東池袋公園はにぎわい創出や交流の空間として有効に活用すべき
- ・地元の人が使わない公園は、管理が行き届かず好ましくない状態になる
- ・みどりを増やすのはいいが、適切な維持管理が必要

<防災について>

- ・帰宅困難者対策は民間施設も含めて、協力体制を構築することが重要
- ・普段使っていない場所は緊急時も使えない
- ・普段からわかりやすい案内表示があれば、災害時にも避難しやすい
- ・造幣局移転後の公園整備では、非常時に自立できる発電施設やヘリポートが必要
- ・池袋駅北口周辺の東西の地下連絡道が、ゲリラ豪雨で浸水する

<防犯について>

- ・人通りの少ない地下道は防犯面で懸念
- ・「犯罪の多いまち」というイメージを変えることが必要

<エネルギーの効率的利用について>

- ・造幣局移転後の防災機能をもった公園、地域冷暖房、ガス中圧管、雨水貯留施設を活用し、都心型スマートシティのモデルとして整備すべき
- ・清掃工場の排熱は、将来、未利用エネルギーとして活用を検討

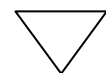
<地域コミュニティについて>

- ・地域区民ひろばは、多世代交流の拠点としての可能性をもっている

■ワークショップでのまちづくりの目標案

(変更なし)

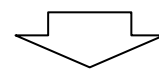
多彩な魅力があふれる副都心



■ワークショップでのまちづくりの主な課題案

<現在の都市計画マスタープラン>

- 区を中心となるまちの形成（副都心機能の充実）
- 歩きやすく楽しいまちの形成（魅力あるアメニティ空間の形成）
- 環境に配慮するまちの形成（資源の有効利用）
- 安全で快適なまちの形成（道路基盤等の整備）



<ワークショップでのまちづくりの主な課題案>

- 区を中心となるまちの形成（副都心機能の充実）
- 歩きやすく楽しいまちの形成（**にぎわいの連続性が感じられる都市空間の形成**）
- 環境に配慮するまちの形成（**エネルギーの効率的な利用**）
- 安全で快適なまちの形成（道路基盤、**防災機能をもつ公園の整備、防犯に配慮したまちづくり**）

(赤字は現在の都市計画マスタープランからの変更点)

■地区特性を生かしたまちづくりの主な視点

①回遊性の創出

- ・グリーン大通りをにぎわいの骨格として形成
- ・新庁舎地、現庁舎地周辺まちづくりによる新たなにぎわい拠点の形成
- ・新たな公共交通の導入検討
- ・駅の東西間や地上・地下のわかりやすい案内表示やサインの充実（災害時には避難場所へ案内する役割をもつ）

②防災性の向上

- ・帰宅困難者対策（平常時は交流空間、災害時は一時滞留施設）
- ・造幣局移転後の防災機能をもった公園整備（自立分散型エネルギー施設やヘリポートの導入検討など）

③交通基盤の充実

- ・都市開発と合わせた駐車場、駐輪場の確保
- ・集約駐車場の検討
- ・公共交通が利用しやすい駅前広場の整備の検討

④みどりの充実

- ・駅前は人間中心で緑豊かな空間として形成
- ・地域のみどりの拠点としての新庁舎の整備
- ・にぎわい創出や交流空間としての公園の活用

⑤エネルギー効率の高い都市づくり

- ・地域冷暖房の活用
- ・未利用エネルギー源としての清掃工場の活用
- ・都心型スマートシティとして形成

■地区の魅力や資源などの主な意見

<まち全体のイメージについて>

- ・住んで楽しいまち
- ・居住者も満足できる「住んで良し」のまちを目指すことが重要
- ・まちづくりはみちづくり

<活性化のあり方について>

- ・子ども（子育て世代）を呼び込むまちづくり
- ・地域が中心となったボトムアップ型のまちづくり
- ・池袋は起業者などのスタートアップの場となっているので、空き店舗や空き部屋を起業者などに貸す仕組みづくりによって池袋を活性化させる

<改善地区について>

- ・行政の補助などによる密集市街地の改善の仕組みづくり

<立教大学とまちづくり>

- ・立教大学を生かした文教都市のPR
- ・IT産業の誘致や立教大学と連携したまちづくり
- ・立教大学と町会が連携したまちづくり
- ・立教大学の学生を中心とした活動を生かしたまちづくり
- ・立教大学のレンガとツタの雰囲気を生かしたまちづくり

<谷端川緑道周辺のまちづくり>

- ・谷端川緑道は、みどりの空間としても、道路としても不十分であり、緑道空間も含めて道路としての機能を高めることが必要
- ・谷端川沿いに、藤棚をつくるなどして、池袋駅から谷端川沿いまで人の流れを引き込めないだろうか（にぎわいの向上）
- ・谷端川緑道沿道は、古い建物が多いため、緑道のリニューアルを進め、建物も建替えが進むようにすることが必要

<池袋駅及び駅周辺について>

- ・池袋駅は色々な面で圧迫感があり、来街者が駅から外へ出ようという気が生まれにくい気がする
- ・池袋駅は、地下が複雑であるのと、どこに何があるか分かりにくいいため、駅構内の分かりやすい案内サインの設置が必要
- ・東西の回遊性を高めるためには、東西デッキの整備が重要
- ・西口は「怖い、治安が悪い、汚い」という印象がある。公園の整備を含めてデザイン性のある空間になると印象が変わってくると思う
- ・乗降客数の多さを周辺地域へ引き込むまちづくりが必要
- ・劇場通り沿いには文化・芸術の彩りを出すため、アートギャラリーや芸術系の個々の店舗等を誘致し、東京芸術劇場と一体となった文化・芸術の軸にする

<みどりについて>

- ・みどり豊かなまちづくり
- ・人が集まる公園づくり
- ・みどりと花をあるべき場所に作り、適切に管理することが大事

<地域イベントについて>

- ・都市の広場を活用したイベント、取り組み
- ・豊島区ならではのイベントや、他の地区でやっているようなイベントなど、人を引き付けることが重要

<道路・鉄道について>

- ・補助73号線、補助173号線の早期整備
- ・LRTの整備やコミュニティバスの運行による東西の連携

<自転車について>

- ・駅周辺への乗り入れ規制
- ・商業施設など民間による駐輪場の整備への行政のバックアップ
- ・池袋駅直近での大型機械式駐輪場の整備
- ・シェアサイクルの導入

■ワークショップでのまちづくりの目標案

(変更なし)

文化をはぐくむ副都心

■ワークショップでのまちづくりの主な課題案

<現在の都市計画マスタープラン>

- 区の文化の中心地の形成（副都心機能の充実）
- 歩きやすく楽しいまちの形成（魅力あるアメニティ空間の形成）
- 環境に配慮するまちの形成（資源の有効利用）
- 副都心のオアシスづくり（拠点の新たな整備）
- 不燃化を進めるまちの形成（防災性機能の維持・向上）

<ワークショップでのまちづくりの主な課題案>

- 区の文化の中心地の形成（副都心機能の充実、**大学を生かしたまちづくり、魅力あるイベントづくり**）
- 歩きやすく楽しいまちの形成（**みどり豊かな魅力ある都市空間の形成、自転車駐車場の整備**）
- 環境に配慮するまちの形成（資源の有効利用）
- 副都心のオアシスづくり（拠点の新たな整備、**公園の再整備**）
- **安全で快適なまちの形成**（防災性機能の維持・向上）

(赤字は現在の都市計画マスタープランからの変更点)

■地区特性を生かしたまちづくりの主な視点

①立教大学を生かしたまちづくりの推進

- ・レンガ・ツタなど立教大学の特色を生かし、周辺と一体となった景観づくり
- ・立教大学と町会が協働で進めるまちづくり
- ・立教大学の学生を中心とした活動を生かしたまちづくり

②池袋副都心の機能強化

- ・東京芸術劇場の立地を生かし、文化・芸術の彩りを感じられる店舗等の誘致
- ・池袋駅東西の連携強化（東西の回遊性を高める東西デッキの整備、LRTの整備による東西の連携）
- ・池袋駅の利用客を周辺地域へ引き込む魅力づくり
- ・駅利便性の向上（駅構内の分かりやすい案内サインの設置）

③防災まちづくりの推進

- ・谷端川緑道沿道の老朽建築物の更新、道路の改善
- ・補助173号線の整備と沿道まちづくり
- ・行政の補助による密集市街地改善の仕組みづくり

④質の高いみどりの創出・活用

- ・人が集まれる質の高い公園づくり
- ・地区全体の緑被率を向上し、みどり豊かなまちづくり
- ・谷端川緑道を生かしたにぎわいづくり

⑤安全・安心な歩行空間の形成

- ・商業施設など民間による駐輪場整備など、官民協働による駐輪場の整備
- ・歩行者の安全性を確保するため、歩行者空間と自転車走行空間の分離
- ・池袋副都心の回遊性を高めるシェアサイクルの検討

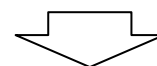
■地区の魅力や資源などの主な意見

- <まち全体のイメージについて>
 - ・情緒あふれた寺社仏閣・みどりが多く、地域に分散
 - ・地元住民の憩いの場となる公園が多い
 - ・雑司が谷地区の魅力である都電が走る風景
 - ・魅力ある細い路地や古い街並みが残る
 - ・年配者が多いまち
 - ・鬼子母神や雑司ヶ谷霊園、並木ハウスなど歴史・文化資源を生かし、地域全体で歴史や文化を守るまちづくり
- <雑司ヶ谷霊園について>
 - ・数多くの著名人、文化人の墓がある雑司ヶ谷霊園
 - ・歴史散策など、多くの人々が来街する慣れ親しんだ場所
 - ・災害時の避難場所として安心感がある
 - ・住民の集いの場としての雑司ヶ谷霊園
- <雑司が谷駅及び周辺について>
 - ・副都心線の開通により利便性が向上
 - ・自転車利用に対応した駅周辺への駐輪場の整備が必要
 - ・七福神巡りなど雑司が谷地区の案内板の設置が必要
 - ・目白通りの歩行者交通量が多く、歩道の幅員が狭いため、車いすなどでは通りにくい。また、歩行者と自転車が錯綜して危険
 - ・目白通り沿い側の地下鉄の出入口にたまり空間をつくる等改善が必要
 - ・雑司が谷駅周辺の商店街は、個々で頑張るのではなく、地域ぐるみで商業の活性化を図ることが必要
 - ・商店街の空き店舗をカフェ等にして利用できないか。都電の電停前のカフェはランチをはじめから非常に賑わっている
 - ・商店街でイベントを開催することなどが商店街に人を誘導できるきっかけとはならないだろうか
 - ・雑司ヶ谷なすを雑司ヶ谷の地域資源として活用することはできないか。(商店街の空き店舗などで販売するなど。) 旧高田小学校跡地や小学校で栽培するなどしてはどうか
 - ・駅周辺で買い物や食事ができるような店舗がほとんどなく、生活利便性が低い
 - ・新たな店舗や若い人向けの店舗がオープンしづらい状況にある
- <住宅地について>
 - ・狭あい道路が多く、住宅が密集しており、防災上問題がある
 - ・災害時における避難を誘導する案内板の設置が必要
 - ・老朽化した建物の解体を補助するしくみづくり
 - ・低層中心の住宅地として、良好な住環境を保全
 - ・地区外からの若いファミリー層の移転が多い一方、若いファミリー向けの住宅が不足しているため、若い人が住めるような仕組みづくりが必要
- <日本女子大の移転(西生田から目白へ)について>
 - ・日本女子大の一部の学部が移転してくることによる人の流れの変化を活かしたまちづくり
 - ・古い建物をリニューアルした学生用住宅の整備
- <環5の1、都電周辺に関して>
 - ・大鳥神社と都電が走る景観が崩れない建築物の高さ誘導が必要
 - ・都電と環5の1が一体となった道路景観の形成
 - ・環5の1の緑化が必要(住民の努力による緑化も進める)
- <みどり>
 - ・「つくるみどり」と「守るみどり」を分けて考えていく必要があり、まずは今あるものをなくさないようにすることが大事
 - ・みどりの管理や保存のルールづくりは課題が多い。欲しいというだけではだめで、住民も協力していく必要がある
 - ・旧高田小学校のみどりや日本女子大寮のみどりは周辺住民にとっても大切な資源なので維持してほしい
 - ・学生が安全に遊べる場所の確保
 - ・南池袋第二公園の防犯面の向上(道路から公園の中が見えない)
 - ・南池ふくろうひろば児童遊園へのトイレの設置

■ワークショップでのまちづくりの目標案

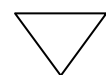
<現在の都市計画マスタープラン>

歴史と文化に包まれたまち



<ワークショップでのまちづくりの目標案>

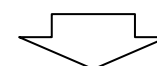
歴史と文化に包まれ、みどり豊かなまち



■ワークショップでのまちづくりの主な課題案

<現在の都市計画マスタープラン>

- 歴史を醸し出す落ち着いたまちの形成(閑静な住環境の保全)
- 地区にふさわしい街並みの誘導(新しい都市基盤の整備と街並み形成)
- 不燃化をすすめるまちの形成(防災機能の維持・向上)



<ワークショップでのまちづくりの主な課題案>

- 歴史を醸し出す落ち着いたまちの形成(閑静な住環境の保全、**歴史資源・みどりの保全**)
- 地区にふさわしい街並みの誘導(新しい都市基盤の整備と街並みの形成)
- 安全・安心で快適な**まちの形成(防災機能の維持・向上による住環境の改善)

(赤字は現在の都市計画マスタープランからの変更点)

■地区特性を生かしたまちづくりの主な視点

①防災まちづくりの一層の推進

- ・狭あい道路や住宅密集地の解消による防災性の向上
- ・環状5の1号線の整備と沿道まちづくり
- ・災害時における避難を誘導する案内板の設置
- ・老朽建築物を除去する仕組みづくり

②都電を生かした景観の形成

- ・都電と環状5の1号線が一体となった景観づくり
- ・都電沿線(環状5の1号線沿道)の建物の高さ規制による街並みづくり

③みどりの保全・創出

- ・雑司ヶ谷霊園、寺社仏閣、旧高田小学校、日本女子大学生寮などのみどりの保全
- ・区民参加による都電沿線(環状5の1号線沿道)の緑化の推進

④地域資源を生かしたまちづくり

- ・鬼子母神、雑司ヶ谷霊園、並木ハウス、雑司が谷旧宣教師館など歴史・文化資源を生かしたまちづくり
- ・雑司が谷駅周辺における歴史散策(七福神めぐりなど)など地区の回遊性を高める案内板の設置
- ・地域資源を生かした散策ルートづくり
- ・商店街の空き店舗を活用した地域資源(雑司が谷なすなど)の販売などによる地域の活性化

⑤生活拠点としての雑司が谷駅周辺地区の機能強化

- ・駅利便性の向上(駅出入口でのたまり空間の創出・歩行者の安全性を高める道路の改善、駅周辺での駐輪場整備、駅周辺での商店の活性化など)
- ・雑司が谷駅周辺の案内板の設置
- ・生活関連機能の誘導(若いファミリー層向けの住宅供給、若い人が住めるような仕組みづくり、若い人向けのお店の誘致など)

■地区の魅力や資源などの主な意見

<まちづくりの目標について>

- ・人口減少・少子高齢化を見据え、産業ではなく、安全・安心に重きを置いたまちづくり
- ・落ち着いた住環境や緑・坂・神田川などの良好な景観資源を活かしたまちづくり

<住環境について>

- ・急な坂に手すりを設置するなど、バリアフリーの充実による高齢者が住みよいまちづくりが必要
- ・若い人に住んでもらえるようなまちづくりが必要
- ・集合住宅居住者の町会加入をルール化するなど、地域コミュニティの活性化が必要
- ・住環境を守るために、地区計画制度の導入検討も含め、当該地区における準工業地域のあり方を検討することが必要
- ・宅地細分化を防ぐことに十分配慮することが必要

<産業・商業について>

- ・放射7号線（新目白通り）沿道において、商業機能の誘導による活性化を検討してもよいのではないか
- ・地域内へ産業を呼び込む場合、狭小道路の改善が必要

<防災・防犯について>

- ・空き家等の増加により、防災・防犯面の対策が必要
- ・ゲリラ豪雨などによる水害への配慮が必要
- ・防災機能を備えた公園・広場が必要

<みどりについて>

- ・街路樹や並木などのみどりの維持や適切な管理が必要
- ・集合住宅建設時に、オープンスペースを設けるなどゆとりある地域環境を確保することが必要

<道路・交通環境について>

- ・急な坂などにおいて、高齢者に配慮した安全・安心な道路整備が必要
- ・地区内の狭小道路等について、安全な道路環境の整備・改善が必要
- ・生活道路と幹線道路の接続箇所では、安全性や渋滞等への配慮が必要

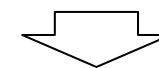
<雑司ヶ谷駅及び駅周辺環境について>

- ・高田地区の住民にとっては利用しづらい
- ・駅開業による波及効果があったようには思えない
- ・千登世橋教育センターなどの公共施設の管理運営を、もっと民間に委託すべき

■ワークショップでのまちづくりの目標案

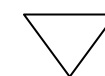
<現在の都市計画マスタープラン>

産業と生活を育むまち



<ワークショップでのまちづくりの目標案>

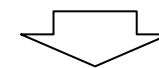
自然と歴史が調和した生活と次世代を育むまち



■ワークショップでのまちづくりの主な課題案

<現在の都市計画マスタープラン>

- 住宅地に調和した都市型産業の活気のあるまちの形成（各種機能の調和）
- 坂と川がある景観を大切にしたいまちの形成（美しい環境の保全）



<ワークショップでのまちづくりの主な課題案>

- 住宅地に調和した都市型産業の活気のあるまちの形成（各種機能の調和）
- 坂と川がある景観を大切にしたいまちの形成（美しい環境の保全）
- 安全・安心で快適なまちの形成（住環境の改善・防災・防犯機能の強化）

（赤字は現在の都市計画マスタープランからの変更点）

■地区特性を生かしたまちづくりの主な視点

①人口減少・少子高齢化を見据えたまちづくりの推進

- ・急な坂道などにおいて、高齢者に配慮した道路環境のバリアフリー化

②安全・安心な道路の整備推進

- ・急な坂道などにおける高齢者に配慮した道路環境のバリアフリー化（再掲）
- ・住宅地内の幅員の狭い道路において通過する車のマナー改善

③落ち着いたある住環境の維持・向上

- ・建物高さの制限、敷地規模の制限、集合住宅建設時にオープンスペースを設けるなど環境維持のためのルール化の検討（地区計画等）

④自然や地形・歴史を活かした景観形成・観光魅力づくり

- ・神田川、のぞき坂、宿坂などの自然や地形、旧鎌倉街道沿道に点在する社寺等の歴史資源を生かした景観による魅力づくり
- ・神田川沿いの樹木等の適切な維持・管理
- ・観光資源になりうる地域資源について案内サインを設置

⑤防災まちづくりの一層の推進

- ・防災機能を備えた公園・広場の整備促進
- ・建替えにあわせた狭あい道路の拡幅やすみ切りの整備

■地区の魅力や資源などの主な意見

<地区の将来像について>

- ・文教地区のイメージを大切にしまちづくりを進めてほしい

<敷地の細分化について>

- ・敷地が細分化し、それに伴う形で宅地内の緑の量も減少

<目白駅周辺について>

- ・池袋の街とは違ったイメージを持っていることが目白駅周辺の街の魅力
- ・目白駅周辺のにぎわいを考える場合、新宿区との連携が不可欠
- ・駐輪スペースが不足しているほか、タクシー乗り場も遠い
- ・生活に密着した店舗の充実が必要

<教育文化関連の機能集積について>

- ・教育文化関連施設の集積を生かし、街の活性化につなげていけると良い

<散策路や歩行者空間について>

- ・魅力的な施設が点在しており、散策を楽しむことができる街である
- ・散策マップは、これまでも数多く作られているが、有効活用が課題
- ・歩道に休憩スペースとなるベンチや案内板（サイン）の設置が必要。
- ・コミュニティ道路（目白古道）の検討では、多様な住民の参画を期待

<学習院大学について>

- ・大学をオープンスペースや、子育て世代の交流の場などとして活用することについて、行政からも大学に働きかけてほしい
- ・学習院大学は緑が豊かで、春には地域の人桜を見に来たりもするが、依然として入りにくいという声もある

<情報発信・地域交流の場について>

- ・目白地区のイベントや地区のアピールを行う情報発信の場が必要
- ・地域区民ひろばの設置と合わせて、地域の情報を発信できるような機能が導入されると良い
- ・情報発信の場としては駅を活用することも重要
- ・地域交流のためのスペースについては、民間活力を活用して確保するという視点も重要

<公園について>

- ・子育て世代の視点では、目白地区には自由に遊ぶことができる公園が不足
- ・空き地をコミュニティガーデンのような空間とする工夫も考えられる
- ・地域のシルバー人材が、子ども達に色々なことを教える場にもなれば世代間交流の場にもなる

<防災について>

- ・防災に関して町会と住民の議論が少ないこと、また、学生と町会との関わりがないことが課題
- ・防災訓練などをいかに普及するかが課題。

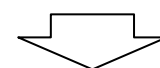
<地域コミュニティについて>

- ・ハードの整備とあわせて、交流を生み出す仕掛けや仕組みづくりが必要
- ・交流には、場所、プログラム、人材の3つの要素が必要
- ・まちづくりにも、ICT やスマートシティなど新しい概念を取り入れていくことで若い人も関心をもつことができる

■ワークショップでのまちづくりの目標案

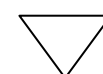
<現在の都市計画マスタープラン>

みどり豊かで格調のあるまち



<ワークショップでのまちづくりの目標案>

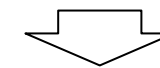
みどりと文化・教育施設が調和した格調のあるまち



■ワークショップでのまちづくりの主な課題案

<現在の都市計画マスタープラン>

- 閑静で暮らし良いまち（良好な住宅地の保全）
- 洒落た駅前のあるまち（拠点の再整備）
- みどりの拠点がある安全・安心なまち（防災機能の維持・向上）



<ワークショップでのまちづくりの主な課題案>

- 文教のまちにふさわしい**閑静で暮らし良いまち
（良好な住宅地の保全）
- 洒落た駅前の**落ち着いたにぎわいのあるまち**
（交流拠点の充実）
- みどりの拠点と**地域コミュニティが支える**安全・安心なまち
（防災機能の維持・向上）

（赤字は現在の都市計画マスタープランからの変更点）

■地区特性を生かしたまちづくりの主な視点

①落ち着いたにぎわいのあるまち

- ・池袋とは違った目白独自の地域イメージ（文教地区など）の活用
- ・教育文化関連施設の集積の活用
- ・目白駅周辺での生活サービスの充実

②文化的資源を生かした回遊性の向上

- ・点在する文化的資源を結んだ散策ルートの設定
- ・歩行者と自動車が共存した道づくり
- ・散策マップなどによる魅力の情報発信
- ・目白駅での地区の魅力の情報発信
- ・歩道に休憩スペースとなるベンチや案内板（サイン）の設置。

③みどりの保全と創出

- ・学習院大学の緑の保全
- ・宅地内の緑の保全
- ・広々とした公園などオープンスペースの充実

④地域コミュニティ

- ・地域交流の拠点としての大学の活用
- ・地域と大学の交流・連携によるコミュニティの活性化
- ・地域の交流を生み出す仕掛けや仕組みづくり

⑤地域の防災力の向上

- ・防災訓練等による防災力の向上
- ・学生や町会など地域の多様な主体が参画した防災活動の仕組みづくり

■地区の魅力や資源などの主な意見

<要町通り・えびす通り商店街>

- ・要町通りは道路が整備されたものの、にぎわいや活気がなくなった
- ・えびす通りは、閉店する商店が増えた
- ・現行の都市計画マスタープランでは、えびす通り商店街を「歴史ある商店街」と表現しているが、今の商店街の状況を見ると違和感がある
- ・商店街での買い物では会話など人と人の触れ合いがあるため、活性化することは必要

<住環境について>

- ・相続税が高く、土地の細分化やマンション建設を防ぐことが難しい
- ・土地の細分化に伴い緑の量も減少
- ・敷地が小規模化する傾向に対しては、一步踏み込んだ対策が必要
- ・池袋に近いなど利便性が高く、戸建を中心とした良好な住宅環境は子育て世代にアピールできる

<千川駅、要町駅周辺地区について>

- ・エレベーターが要町通り南側の片側1箇所しかなく、増設が必要
- ・千川駅の階段は滑りやすく改善が必要
- ・歩道と自転車走行レーンを分離すべき
- ・要町通りは、歩道と車道の段差が大きく、自転車の走行に危険
- ・商店街の空き店舗を活用することも含めて、日中の自転車利用者のための駐輪場を分散して配置することが考えられる
- ・電動アシスト自転車や三輪自転車は高齢化に伴い利用が増えると考えられるので、駐輪場の設置等の際にも配慮が必要
- ・駅周辺に高齢者の方々が休憩できるベンチや緑陰（バス停も含む）があると生活拠点にふさわしくなる

<地域コミュニティについて>

- ・マンションは人口増加につながるが、マンションの住民と顔を合わせる機会がない
- ・人々を町会活動等に参加させる仕掛けが必要

<防災について>

- ・要町・高松は、狭あいな道が多く、緊急車両が入れない場所が多い
- ・建て替えと合わせた狭あい道路の拡幅は、状況が改善するまで何年かかるかわからない

<地域の魅力資源について>

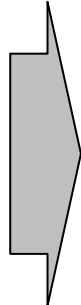
- ・旧千川小学校の桜は、旧千川上水沿いの桜並木（板橋区側）と一体的な空間を形成しており、今後とも残してほしい

<地域交流の拠点となる空間や施設について>

- ・旧千川小学校跡地には、複合施設ができるが、町会イベントの用地として使えるかが心配
- ・大きな公園がなく、いくつかある公園も規模が小さい上に、使い方に規制が多い
- ・区民ひろばは、目的をもって集まる人にとっては便利だが、そうした活動に参加できない高齢者にとっては、気軽に休憩や歓談できる場所がなくなってしまった
- ・商店街の空き店舗は、高齢者の居場所として活用できないか

<都市計画マスタープランについて>

- ・都市計画マスタープランの策定後に、どのような取組みが実施され、何がどう変わったがわかるようにすることが重要
- ・都市計画マスタープランの策定で議論されたことが、関係する人たちに伝わるような仕組みが重要



■ワークショップでのまちづくりの目標案

<現在の都市計画マスタープラン>
閑静でのびやかな暮らしのまち

↓

<ワークショップでのまちづくりの目標案>
閑静で**人と人とのふれあいのある**まち

■ワークショップでのまちづくりの主な課題案

<現在の都市計画マスタープラン>

- みどりあふれる閑静なまちの形成（良好な住宅地の保全）
- 歴史ある商店街と新しい商業地が調和するまちの形成（商業の活性化）
- 安全・安心で快適なまちの形成（防災性の向上）

↓

<ワークショップでのまちづくりの主な課題案>

- みどりあふれる閑静なまちの形成（良好な住宅地の保全）
- 多様な交流の場や機会のあるまち（地域交流拠点の充実）**
- 安全・安心で快適なまちの形成（防災性の向上）

（赤字は現在の都市計画マスタープランからの変更点）

■地区特性を生かしたまちづくりの主な視点

①良好な住環境の保全

- ・戸建を中心とした良好な住環境の保全（敷地の細分化の防止の検討）
- ・子育て世代にアピールできる住環境の形成

②生活拠点としての千川駅、要町駅周辺地区の機能強化

- ・千川駅、要町駅のバリアフリー化
- ・要町通りでの歩行者と自転車の分離
- ・通勤通学利用者ばかりでなく、日中の駅周辺の施設利用者も考慮した駐輪場の配置
- ・高齢者の方々が休憩できるベンチ等の設置や緑陰の形成

③木造住宅密集地での防災性の向上

- ・建て替えと合わせた狭あい道路の解消
- ・行き止まり道路の解消やオープンスペースの確保による住環境の改善

④地域交流の拠点の充実

- ・集合住宅に転居してきた住民と、既存の地域コミュニティとの交流の機会・場の充実
- ・千川小学校跡地では、地域活動の拠点となる広々とした公園を整備
- ・高齢者が気軽に集うことができる居場所づくり
- ・地域の交流空間としての商店街の再生・活性化

⑤都市計画マスタープランの普及と活用

- ・都市計画マスタープランの進行管理
- ・都市計画マスタープランの周知

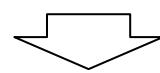
■地区の魅力や資源などの主な意見

- <補助 172 号線などについて>
 - ・地域住民の利用を考慮した人や自転車が使いやすい道路づくり
 - ・防災性だけでなく、まち全体を考えた道路づくり
 - ・道路整備にあたっては、景観の統一、建物高さの制限、敷地規模の制限などの検討が必要
 - ・住民がよく利用する私道の整備（維持管理）の向上
 - ・ベンチなどを設置した、人中心の遊歩道のある道路づくり
- <公園について>
 - ・公園を整備するにあたっては、防犯上のためにも出入口を2か所設けることが必要
 - ・千早フラワー公園は、休める場所の確保として木陰ができる樹木の設置が必要
 - ・貴重なみどりとしての長崎公園、小鳥がさえずる公園の活用
 - ・長崎5丁目児童遊園は、桜を生かした地区のイベント拠点として活用されており、他の公園にも桜の植樹によって豊島区ならではの特徴を付けることが必要
 - ・公園の使いかたに制約が多すぎ、何のための公園であるのかが分からない。各公園の機能をはっきりとさせて設置するべき
 - ・公園内に自転車を置くスペースを明示し、空間をはっきりさせて欲しい
 - ・災害時に避難ができる防災性の高い公園の整備が必要
- <住宅・景観について>
 - ・子育て世代が入居しやすい住宅づくり
 - ・安全性や防災性を高めるため、老朽化した空き家の撤去が必要
 - ・ミニ開発増加に伴う景観への配慮
 - ・無電柱化ができない場所については、電線を直角に張るなど、無秩序に張られた状況の改善が必要
- <公共施設について>
 - ・地区の住民が利用しやすい公共施設の配置、整備
 - ・旧第十中学校をスポーツができる施設として活用
 - ・高齢者だけでなく、子育て世代にも配慮した公共施設の運営が必要
- <ふれあいについて>
 - ・昔は駅前で盆踊りなどをしていた。町会同士で協力するなどして再興したい
 - ・区民ひろばなど交流の場を活用し、人とのふれあいを強化していき、ふれあいのあるまちにしていきたい
- <駅周辺について>
 - ・要町駅におけるバリアフリーの向上
 - ・歩道と自転車走行レーンを分離すべき
 - ・商店街の空き店舗を活用することも含めて、日中の自転車利用者のための駐輪場を分散して配置
 - ・駅周辺に高齢者の方々が休憩できるベンチや緑陰があると生活拠点にふさわしくなる
 - ・東長崎駅前での再開発等によって、集客施設や駅へのアクセス道路を整備し、駅周辺の目玉となる施設をつくり、東長崎駅周辺でのにぎわいを向上
 - ・東長崎駅北口の道路が狭く利用しづらいため、道路の拡幅とともに、人が来るような整備が必要
 - ・東長崎駅を挟んで、南北の交流はあまりない。商業施設の充実と合わせて、駅周辺にも地域の人が利用できる施設があるとよい
 - ・東長崎周辺では、保育園の需要はあるが、現状は足りておらず、駅周辺に保育園があると便利
 - ・地区を分断する踏切は、「開かずの踏切」状態になることもあるので、改善が必要
 - ・椎名町駅周辺に、若者を呼び込むような施設が必要
 - ・椎名町の商店街はほとんどすたれてしまっている。また、高齢化で後継者がいないことも問題
 - ・椎名町から東長崎にかけて多くの商店街があるが、それぞれの連携があまりない。商店街同士が連携することや、区民が地元のお店を利用していくことが必要
 - ・ある程度大きい病院は、高齢者を抱える家族にとって安心な要素である上、高齢者としては、他の高齢者とのコミュニケーションの場となる
 - ・商店街へのアクセスしやすさという点において、商店街で駐輪場を整備することが重要
- <環境について>
 - ・住民の意識啓発も含めたゴミ対策の改善が必要
 - ・ゴミの回収の仕方（時間帯含む）の改善が必要

■ワークショップでのまちづくりの目標案

<現在の都市計画マスタープラン>

街角にうるおいのある暮らしやすいまち



<ワークショップでのまちづくりの目標案>

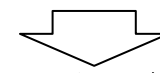
街角にうるおいとふれあいのある暮らしやすいまち



■ワークショップでのまちづくりの主な課題案

<現在の都市計画マスタープラン>

- 歩いて楽しく美しいまちの形成（アメニティ豊かな住宅地の保全・形成）
- 庶民的な暮らしやすいまちの形成（生活拠点の整備）
- 安心・安全で快適なまちの形成（防災性の向上）



<ワークショップでのまちづくりの主な課題案>

- 歩いて楽しくうるおいのある美しいまちの形成（住みよい住宅地の保全・形成、公園やみどりの充実）
- 充実したコミュニティと庶民的な暮らしやすいまちの形成（生活拠点の整備、地域コミュニティの強化）
- 安心・安全で快適なまちの形成（防災性の向上）

（赤字は現在の都市計画マスタープランからの変更点）

■地区特性を生かしたまちづくりの主な視点

①補助 172 号線の整備

- ・補助 172 号線の整備と沿道まちづくり
- ・地域が使いやすい歩道空間の検討（歩行者・自転車の空間分離など）
- ・建物高さ制限、敷地規模の制限、景観の統一などのルールづくり（地区計画など）

②みどりの保全・充実

- ・憩いの空間として質の高い公園の整備や災害時に避難ができる防災性の高い公園の整備
- ・利用しやすい公園の再整備（公園内で自転車を置くスペースの明示など）

③安全・安心な住環境の維持・向上

- ・地区計画など住環境維持のためのルール化の検討
- ・老朽化した空き家の撤去に対する対策の検討
- ・住宅地内で住民が良く使っている私道の整備（維持管理）の検討
- ・ゴミ出しのマナーの向上や回収方法の改善などにより、現在の住環境を維持・向上するためのごみ対策の改善の検討

④ふれあいによる地域の活性化

- ・地域で地元の店舗を利用し育てていくことによる商店街の活性化
- ・区民ひろばなど交流の場を活用した地域コミュニティの強化（人と人とのふれあいの強化）

⑤生活拠点としての椎名町・東長崎駅周辺地区の機能強化

- ・駅前整備（再開発等の実施）による生活拠点の活性化・イベントやお祭りなど人とのふれあいや交流の場として、駅前広場空間の活用
- ・生活関連機能の誘導（病院、保育所、日用品・食料品店舗等）
- ・駐輪場の整備

■地区の魅力や資源などの主な意見

〈まち全体のイメージ〉

- ・落ち着いた住環境に配慮しながら、防災のまちづくりを継続
- ・地区の歴史や資源・施設を生かした文化や健康・スポーツを特徴とするまちづくり
- ・高い交通利便性と駅周辺の商業集積を生かしたまちづくり
- ・学生などの若い年代が住みやすいまちづくり
- ・みどり豊かな住環境を活かしたまちづくり
- ・地域コミュニティが充実したまちづくり

〈交通・道路について〉

- ・狭い幅員の道路に通過する車を入らせないような仕組みづくり
- ・子供や高齢者、障害者が多く利用する公園や施設周辺の歩行者の安全性の確保
- ・西部区民事務所や千早図書館、各区民ひろば等の北側施設利用のためのコミュニティバス運行

〈観光資源について〉

- ・お休み処などの拠点、案内サイン、イベントなどの充実
- ・トキワ荘通りのイベント時などは、通りの自動車の規制が必要
- ・トキワ荘の活用は、周辺の住環境に配慮するとともに、新たな施設や駐車場等が必要
- ・トキワ荘の歴史の語り手が少なく、ソフト面の充実が必要
- ・歴史がある門や庭、屋敷等を観光や景観の資源として活用

〈公園について〉

- ・南長崎はらっぱ公園は、オープンスペースのイベント利用に加えて、更に有効活用が必要
- ・椎名町公園は、街灯の増設や利用マナーの向上が必要
- ・南長崎児童公園は、地域において草刈りなどの管理をしているが利用マナーの向上が必要
- ・南長崎スポーツ公園は、木陰ができる樹木の設置、街灯増設、周辺道路の安全性確保が必要

〈コミュニティについて〉

- ・小学校や区民ひろばなどを中心とした地域コミュニティの充実
- ・小学校と地域の団体など、横のつながりが深いことをまちづくりに活用
- ・区民ひろばなど地区を超えた交流、さらに他県の都市との交流の促進

〈商店街について〉

- ・商店街の維持・活性化に向けた支援
- ・宅配サービスなど地域の商店ならではのサービス、地域の交流の場としての役割などがある、高齢者の見守りにも寄与

〈住宅地について〉

- ・宅地内の花や緑の配置や適正な管理によるみどり豊かな住宅地の形成
- ・落ち着いた住環境を踏まえて、生活道路の整備や建替えを促進し、ゆっくりと進める防災まちづくり
- ・消防活動を支える生活道路の整備を図るためには、セットバックとあわせて容積率をアップすることが必要
- ・安全性や防災性を高めるため、地元がまとまれば区画整理による一体的な改善も有効
- ・防犯性の向上のため、建替えや住宅整備までの空き家対策が必要
- ・鉄道沿線における住環境に対する配慮

〈駅周辺のまちづくりについて〉

- ・駅利用と商業施設利用の駐輪が混在しており管理とマナーの徹底が必要
- ・自転車を利用しやすい商店街にすれば、周辺住民の利用も増加
- ・自転車置場等の駅関連施設は障害者や高齢者に使いやすい整備・管理
- ・東長崎駅の駅前に整備された広場の有効な活用
- ・椎名町駅周辺は、トキワ荘通りの最寄り駅としての特徴を活用
- ・東長崎駅周辺は、庶民的な商店街や個店の特色を生かしたまちづくり
- ・落合南長崎駅周辺は、スポーツセンターや生活支援施設の立地を生かした健康やスポーツを特徴としたまちづくり

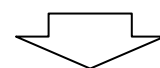
〈その他〉

- ・今後都市計画マスタープランの方針に基づく具体的な取り組みが必要

■ワークショップでのまちづくりの目標案

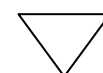
〈現在の都市計画マスタープラン〉

活気あふれ、安全な暮らしができるまち



〈ワークショップでのまちづくりの目標案〉

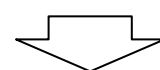
活気と魅力にあふれ、安全な暮らしができるまち



■ワークショップでのまちづくりの主な課題案

〈現在の都市計画マスタープラン〉

- 災害に強いまちの形成（防災性の向上）
- 庶民的な暮らしやすいまちの形成（生活拠点の整備）
- 新しく展開するまちの形成（新たな拠点の整備）



〈ワークショップでのまちづくりの主な課題案〉

- 防災性や防犯性を高め、うるおいのあるまちの形成（防災性・防犯性の向上、公園やみどりの充実）
- 生活利便性の高い、庶民的な暮らしやすいまちの形成（生活拠点の整備、駅の利便性・快適性の向上）
- 健康・スポーツや文化・歴史を育み、充実したコミュニティと交流のあるまちの形成（健康・スポーツや歴史・文化の拠点と活動の充実、観光拠点や散策ルートの充実）

（赤字は現在の都市計画マスタープランからの変更点）

■地区特性を生かしたまちづくりの主な視点

①防災・防犯まちづくりの推進

- ・建替えにあわせた狭あい道路の拡幅やすみ切りの整備、接道部や敷地内の緑化、空き家対策の強化、公園の利用マナーの向上、公園等の暗い箇所における街灯の設置などによる、防災性や防犯性の向上

②椎名町駅・東長崎駅・落合南長崎駅周辺の拠点の強化

- ・鉄道と商業の利用区分を明確にした駐輪施設の適正な管理と利用マナーの向上、周辺商店街の活性化、踏切の安全性の向上などによる、駅の利便性や快適性の向上
- ・椎名町駅周辺はトキワ荘通りの最寄り駅としての特徴、東長崎駅周辺は庶民的な商店街や個店の特色、落合南長崎駅周辺は健康やスポーツの特徴があり、各々の特性を生かした拠点の強化やまちづくりを促進

③文化・歴史、健康・スポーツ、うるおいの資源の活用

- ・商店街や地域の組織などと連携し、トキワ荘などの歴史的・文化的な資源などを活用した交流拠点づくりや地域の活動の充実
- ・公園の樹木の適正な管理や敷地内の緑化などを図り、みどりを活かしたまちづくりを促進
- ・健康・スポーツを特徴とした公園や施設、区民ひろばなどにおける健康づくりに関わる地域活動の促進

④公共交通の確保・充実

- ・主要な区民施設やトキワ荘通りの観光拠点などを結ぶ公共交通の確保・充実（例えば、西部区民事務所や千早図書館、各区民ひろばを結ぶコミュニティバスの運行等）

⑤良好な住環境の充実・向上

- ・住宅地内の幅員の狭い道路において通過する車の進入の抑制
- ・小学校や区民ひろば、地域の組織等の横のつながりが深いことを活かしたコミュニティの充実・向上
- ・住宅地は落ち着いた街並みを活かしながら、花やみどりの豊かな住環境の形成